平形山

平形村はその昔、平館邑といいし山里なり、鎌倉権五郎景政身方ちりぢりに成りしとき此の平館邑の植生に身を潜み居たりけるが正月になれば七草摘むとて小湟、田井の雪間求むるに五〇日児の声して泣くを怪ういぶかしみ、雪踏みしたき山に入れば端正しき少女の水子を抱きて木の穴の内に、大将義家朝臣と居並び、雪の上に柴焚きて居給うを景政見て驚き、いそぎ埴生にいざない奉り来る。その少女は貞任が武士どもに捕えられて後に生きながら埋められしと言へり、此の俗話いぶかしう諾がたし、鎌倉権五郎景政は後三年金沢合戦のころすらや一六歳也といえり、前九年には稚児なるべし。